

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ラ・ポールS		公表日 令和8年5月31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		・動的な活動と静的な活動をする部屋を分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		・児童一人ひとりのやりたい事が出来るような職員の配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		・視覚化してわかりやすくしている。	・玄関先の段差はあるが、状況に応じてスロープも設置可能なので今後、必要であれば検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・物の出し入れや片付けがしやすいように整理している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		・相談の上、使用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	1	・MTGでの情報共有や記録に残すなど、全員が把握できるようにしている。	・全体で改善点を話し合い、業務改善につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・意見を言いやすいような雰囲気作りをしている。 ・HUGで情報を共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・疑問が生じたときは、すぐに相談ができるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		・開所したばかりで、第三者評価を行っていない。今後、検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		・オンライン研修を受ける際はプロジェクターを使用して全員で研修を受けられるようにしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		・職員全員で共有している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		・児発管・保護者・支援員の情報共有を密に行い、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・支援をして変化があったことなど、こまめに情報共有をするように心掛けている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・現場の意見も取り入れるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1	・個別支援計画やアセスメントシートを活用している。	・支援に還元できるようなツールを使えるよう検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		・公園などの公共施設は利用している。	・児童館や地域の方と交流できるような機会を作っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		・利用者が来書する前に内容を話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		・利用者のやりたいことも取り入れている。	・偏りが出ないように他の活動への促しを行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		・個別の活動、集団活動とそれぞれの活動に取り組めるようにしている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・大まかな流れを確認し、必要なものを準備している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		・気になったことは全体で話し合い、支援の方法やその後の変化なども共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・支援記録は必ず行い、支援で困っている事や気になったことは共有するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3		・活動に偏りがないように支援をしている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		・利用者が主体的に活動しやすいような環境を整えたり、活動の提案もしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		・児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		・学校、相談員と主に連携をしている。	・必要に応じて他機関とも連携をしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		・担当者会議、部会、送迎時に情報の共有をおこなっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		・利用者の通っている学校のHPを確認したり、送迎時での申し送りで情報共有をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	1	・対象となる利用者がいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1		・機会があれば活用していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	2		・交流する機会を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	・参加している	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		・送迎時に今日あったこと、最近の家での様子を口頭にて情報交換している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2		・研修や情報提供はおこなえていないので今後、検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		・契約時にきちんと説明を行っている。 ・後日に疑問があった際は、気軽にご連絡頂くよう促している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		・アセスメント、モニタリング、送迎時に情報交換を行いサービス提供および作成に意向を反映させるように心がけている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		・記載された内容だけでなく、イメージしやすいような例を出すなど、わかりやすいように説明をしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		・必要に応じて対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		3		・保護者会もしくは交流会を催せるように検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		・苦情はないが、相談やご意見があった時は、迅速に対応している。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3		・活動内容をブログにUPしている。 ・連絡は主にシステムで連絡をとっている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		・PC、記憶媒体等を施設外に持ち出さないように留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		・送迎時の申し送り、システムを活用するなど、困り感に配慮して対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	2		・今後、地域のイベントなどに参加していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		・座学だけでなく、ロールプレイも行っている。	・今後はHP上にて実施実態を掲載し、情報発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		・BCPの策定を行い、施設内での周知、研修を行いシミュレーションを行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		・契約時のアセスメント時に状況確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		・医師の指示書はないが、事前に保護者からアレルギーの有無と対応について情報共有をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		・安全計画を作成し、HPへ掲載。研修にてシミュレーションを行っている。	・安全計画や研修も行っているが、今後は外部講師も活用していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		・HPで掲載している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		・気になったことは情報共有している。	・ヒヤリハットでなくても改善した方がいいことは、その都度行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		・事業所内でMTGや研修を行い、対応に努めている	・今後も虐待防止に努めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		・契約時に保護者への説明を行い、書面にて確認している。 ・事業所でも研修を行っている。	・今後も研修などを通して、身体拘束の理解に努めていく。	